

Re*al*AL

2013.10 Vol.20

NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS



母の、とっておきのエピソード

小口比菜子



『芸芸』（河出書房）に掲載された
吉行淳之介氏と小口葉子さんの写真
（東京・千代田区立番町小学校にて）

写真撮影＝土門拳

今年、敬老の日に八十九歳のお祝いをいただいた私の母（旧姓片瀬葉子）の小学校時代のことについて、作家の吉行淳之介氏が「私の大親友は、王と長嶋を足したよりも人気があった」と書いたことがある。

吉行氏と母は、番町幼稚園から番町小学校を通して同級だった。「イモ掘りを手伝ってあげたのにまるつきり有難がらなかつた」と、母はたびたび文句を言われたそうである。区立の番町小学校には鼻水を垂らしたり、顔や手が汚れている子が多かった中で、淳之介少年はおとなしくていつも小ぎれいにしていて、そこが良かった、というのが当時の母の印象だった。

*

ここに掲載の写真は、吉行淳之介氏と母のツーショットである。昭和二十九年に「驟雨」で第三十一回芥川賞を受賞して、颯爽と文壇に登場した吉行氏からのたつての依頼で撮影し、昭和三十年頃の『芸芸』（河出書房）に載ったものである。撮影されたのは、当時すでに巨匠の誉れ高かった写真家、土門拳氏である。

余談だが、この雑誌掲載の話にあまり賛成していなかった父が、しぶしぶその要望を受け入れたのは、父が大の写真好きで、しかも土門拳氏のファンだったと

いう理由からだった。

母は父の大蔵省出向先の仙台から上京し、番町小学校で撮影を終えた後、土門氏から行きつけの有楽町の喫茶店へ誘われコーヒーを飲んだ。土門氏が撮影の後で一緒にお茶を飲もうなどと言い出すのは稀なことらしい。土門氏は「僕は、コーヒーは甘いのが好きでね」と言いながら、ふざけて砂糖容器いっぱい砂糖を全部コーヒーカップに入れ、かき混ぜて一気飲み。終始ご機嫌だった土門氏に、「大輪の牡丹のようだ」と讃辞もいたのだが、牡丹があまり好きでなかった母

は、それほど嬉しくもなかったという。ただ、あの気難しくて厳しい土門氏が、あれほどはしゃいだのを吉行氏も編集者も見たことがないとのことであった。雑誌に掲載された写真を父が欲しがったので母が吉行氏にお願いしたところ、編集者ともども震え上がったそうだが、それでも恐る恐るその旨を伝えると、自身が撮影した写真は、被写体側へは絶対提供しないという土門氏が、雑誌に掲載された写真と更におまけを二枚も付けて写真三枚を送ってくださいました。こうしたことはこれが初めてで、それは貴重な思い出の写真となった。

*

母は、ごくごくたまにだが（数年に一回くらいの間隔を置いて）吉行氏とは文学について語り合う友だちとして、付き合いを続けていたらしい。

二人のとびきりのエピソードがある。母が二十一歳の真夏のある日、英会話のレッスンを受けた後、新橋から銀座へ向かおうとしていたとき、「葉子さん」と大声をかけられた。見れば久しぶりに会う吉行氏で、今は雑誌社で編集記者をしているという。くたびれた背広を着ていたが、はつらつと現在の仕事がいかに面白いかを語る表情は輝いていた。「歩きましょうか」と吉行氏は母を促し、銀座

四丁目へと向かった。途中、店の軒下で何度も立ち止まっては熱弁をふるった。四丁目の交差点に着くと、突然、「新橋へ戻りましょうか」と言って、尽きることのない話をしながらまた新橋まで戻って来て、そのまま別れた。一瞬、キョトンとした母は、このとき吉行氏のことを「変わったひとネ」と思ったという。

*

芥川賞を受賞後、作家として脚光を浴びるようになった吉行氏が、エッセイの中で、このときのエピソードに触れている。「ポケットには一杯のコーヒー代しかなかった。お茶に誘いたかったが、割り勘にして欲しいとはとても言えなかつた」と。独自の美学を貫いて多くの人を魅了した、吉行淳之介氏のダンディズムの原点がここにあるように思う。

誰にも知られないままになってしまふのは残念と、病床にある母が力を振り絞って記憶の断片を集めて話してくれた珠玉のエピソード。こうして紹介できる機会を提供してくださった大竹省二先生に心より感謝申し上げます。

また、掲載の私のポートレート写真は、大竹先生に「実物より良く撮ってください」と、厚かましいお願いをして撮っていただいたもの。後にも先にも、これ以上キレイ？な写真はありませぬ。



写真撮影＝大竹省二





惜秋

近藤顕子（会友）

晩秋11月下旬の黄昏時、丘陵の牧野に金色の葉を半ば落としたカラマツの防風林、そこに1頭の仔馬が佇んでいました。薄暮の中、幻影のように浮き上がった白馬の姿を際立たせる露出を設定して、シャッターを切りました。

近年は、十勝のどさんこたちがモデルです。日本伝統の「牧」という飼育法で育てられているどさんこたちは、野生の状態で群れをつくり、自由に山野を駆けまわっています。撮影では馬群の一員として加えてもらい、数日間を一緒に過ごします。馬群の中では作画的に撮影するより、自然に訪れる決定的な瞬間を見逃さないようにファインダーを覗き、ひたすら群れと歩を合せて時を過ごします。馬に魅かれて撮り続け、いつの間にか20年近くになりました。自然に生きる馬の姿を自分なりの方法で表現できないか、模索の日々が続いています。

飾窓

山本博之（特別会員）

都市や町に生活していても、その環境をモチーフとした作品づくりをしている人が案外に少なく、そのことを以前からたいへん残念に思っていました。

確かに都市の建造物や構造は無機的で、一見、面白さがあるようには見えません。しかし、よく見ると都市にも人々の生活があり、住宅の玄関先には鉢植えの花や飾り物などがあって、日々の暮らしと季節の移ろいを感じさせます。また、ビル街では働く人々の活気ある姿、ショーウィンドーの中のデコレーション、変貌する通りの景観に、時代の変化を感じとることが出来ます。

この写真は、宝石を飾った小さな窓のガラスに映る背景と人物、その構成を意識しながら仰角で撮影しました。結果、店の物を借用してはいますが、自分の風景として昇華できたのではないかと思います。（左ページの作品）



棚田夕景

八幡義人(会員)

写友と田植え直後の棚田の撮影に行きました。当日は曇天でしたが、日没直前になって夕日が一瞬閃き、稲苗の列に輝きを与えてくれました。幸運を実感しました。

風景の美は、普遍的(総論的)な価値にあり、秀れた普遍性には卓越した特定(各論的)のモチーフが求められるのも事実です。秀れた撮影対象からいかにして止揚(Aufheben)させ、普遍的な美を演出できるかが問われているように思います。

最近、もし表現に足りない要素があるなら、撮影後に思い通りの修正を加えてしまえばよい、との声も聞かれます。しかし、作品の修飾(消去、添加など)は所詮、人智の及ぶ範囲内での次元の話であると思います。人智を超えた感動は、やはり自然の声に心を虚しくして聴くことよってのみ、予期せぬ成果として得られることでしょう。

躍る

市川喜久雄(会員)

今から38年ほど前、二科展に応募するきっかけとなった写真を昨年、二科会写真部創立60周年記念出版の「渾身の一枚」に寄稿しました。

当時は、使用済みの印画紙現象液を希釈して、高温でのフィルム現像処理によって極端にコントラストの高いネガにしていました。そうした粗粒子表現によって、女性の女性らしいフォルムを自分なりに追求したものです。

しかしながら、子供が多感な時期を迎えた頃から、このような写真の撮影から遠ざかって、もう20年以上も撮っていません。

フィルムでの撮影がデジタルになった今、もう一度あの当時を思い出して、フィルムでできなかつたこと、デジタルでしかない手法を模索し、モノクロフィルムの粗粒子描写を超えるような迫力ある写真を撮ってみたいと思っています。



青森県
秋田県

白神山地

【世界自然遺産】

写真・文 鈴木洋一（会員・秋田支部）

写真 須藤秋男（秋田支部員）



森林浴を満喫しながら緑鮮やかな若葉のブナ林を行く



枝を大きく広げた、生命感あふれるブナの巨木



木々の根開きが始めると北国にもようやく春が訪れる



周囲の木立を映した青池（十二湖）の透明感に引き込まれそうな、不思議な感覚を覚えながら撮影

貴重な自然の宝庫

白神山地は、青森県西部と秋田県北西部にまたがる13万ヘクタールに及ぶ広大な山地帯の総称です。ここには世界最大級の原生的なブナ林が分布し、多種多様な動物植物が生息、自生するなど貴重な生態系が保たれていることから、1993年（平成5年）に世界自然遺産に登録されました。

白神山地の世界自然遺産地域は、核心地域と緩衝地域に区分され、核心地域への入山は東北森林管理局の入山手続きが必要ですが、気軽に訪れることができる場所も少なくありません。

白神山地は特別天然記念物のニホンカモシカをはじめツキノワグマやニホンザル、クマゲラ、イヌワシ、そしてブナ、ミズナラ、サワグルミなどの樹木、アオモリマンテマ、ツガルミセバヤなど特産種を含む豊かな動物相と植物相をもち、遺伝子の貯蔵庫と言われています。

撮影も森林浴も満喫

厳しかった冬から5月に入り、東北の山里も春を迎えようとしています。しかし、白神の山はこの時期、まだ人を寄せ付けようとしません。秋田県側の藤里町から入ろうと試みましたが、途中が地滑りのため閉鎖。入山を青森県側に変更し、西目屋村からのコースを選択。現地に問い合わせを入れて入山できる場所を確認。秋田を朝5時に出発、東北自動車道大鰐弘前インターを経由し、途中、雪解けでぬかるんだ道を走り津軽峠の駐車場へ正午近くに到着。仰ぎ見ると天狗岳、白神

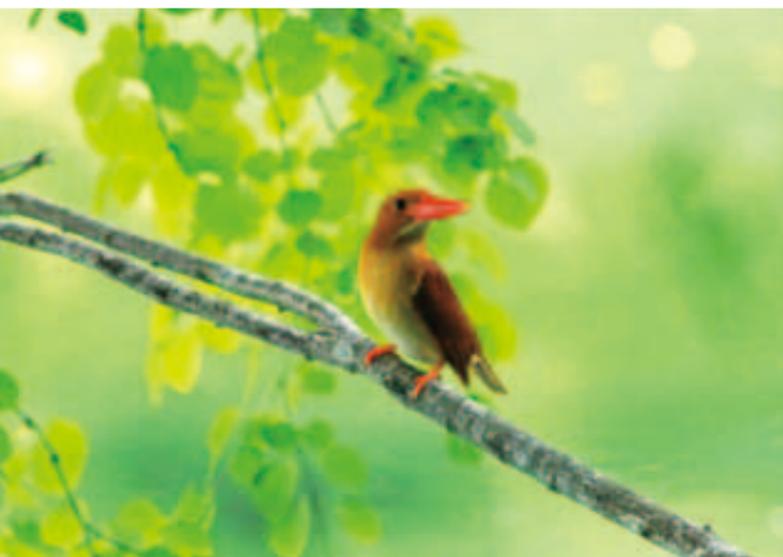


沢の水辺に咲く可憐な白いミズバショウの花に心がむ

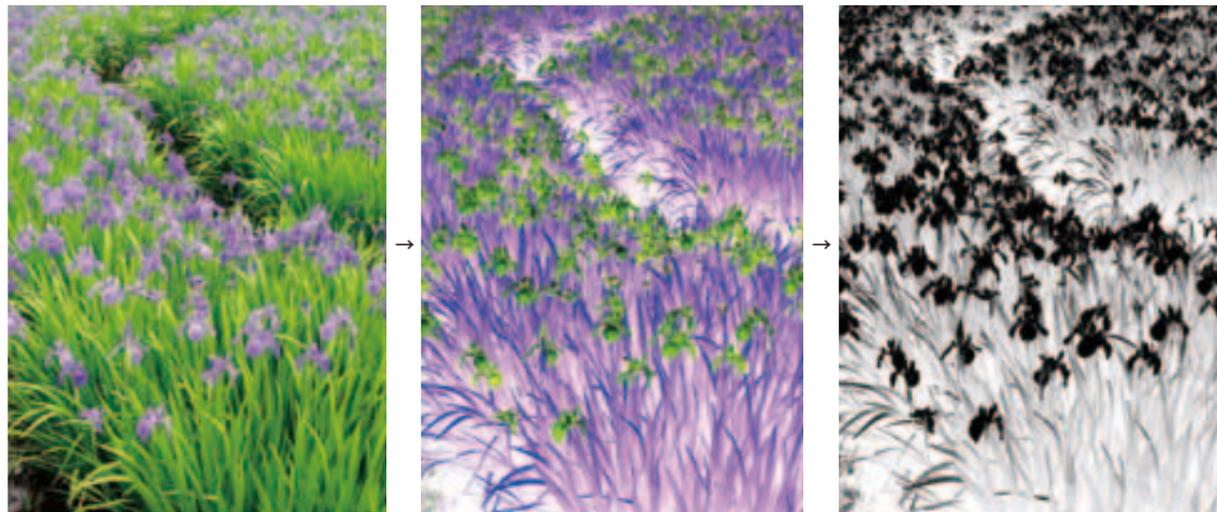
など広葉樹の自然林に囲まれていて、その木々の緑が鏡のような水面に映え、とても幻想的な景観を見せていました。また、ここ十二湖周辺では、6月ごろには約束したかのようにキョロロと鳴くアカショウビンが渡って来て、可愛らしい姿を見ることが出来ます。

今回の撮影は、広大な白神山地のほんの一部分でしたが、撮影目標を決めて数日間、ガイドさんと一緒に歩き回りたいものです。ぜひ、皆さんも撮影に出かけられる際は、北の地へ足を向けてみてはいかがでしょうか。いつでも素晴らしい自然が迎えてくれます。

小枝にとまったアカショウビンの鳴き声を楽しむ（撮影＝須藤秋男）



岳、向白神岳、太夫峰が雪を残していました。「今年は残雪が多い」と常連の入山者。この峠から10分ほど雪溪のブナ林を歩くとブナの巨木、愛称マザーツリーが迎えてくれます。ブナの巨木は根開きを始め、冬芽のガクを周辺の雪上に散らして毅然と立っていました。森林浴を楽しみながら下山途中、ミズバショウが沢の水辺に白い花を咲かせていました。次の日、日本海を右に見ながら五能線沿いに国道101号線を南下して十二湖へ。十二湖のうちで観光客がもっとも多く訪れる青池は、コバルトブルーの湖面が美しい。「時間帯によって水の色が変わるのよ」と、売店の女性が教えてくれました。青池の周辺は、ブナやミズナラ



原画

原画を階調反転し、白黒処理する

2004年度第52回展の出品作品「燕子花園」

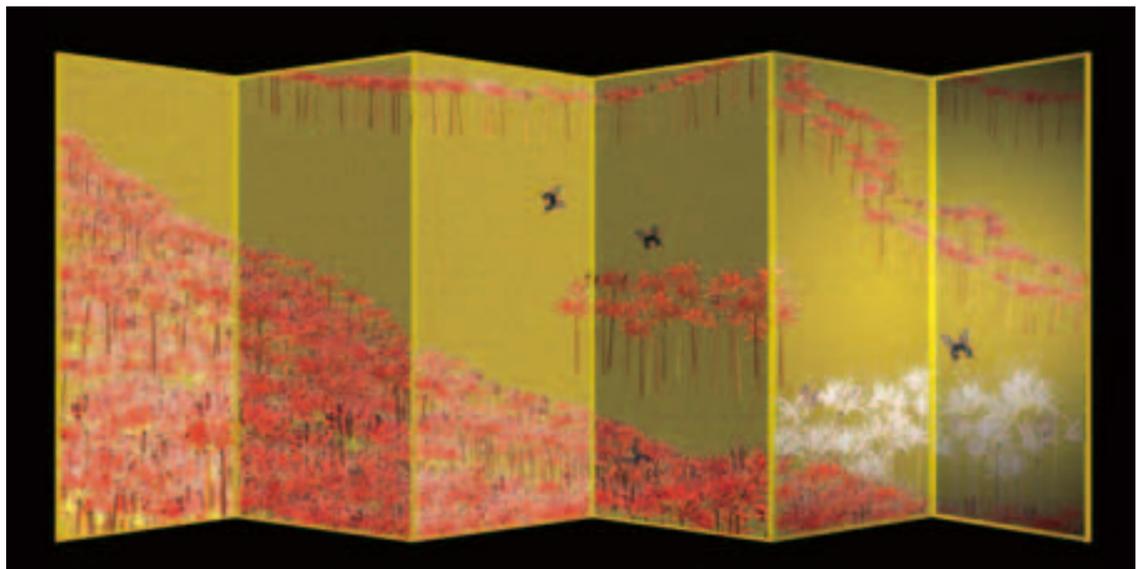
カラーからモノクロ表現へ

一気にカラーからモノクロ反転ではなく、水墨画の墨の濃淡を表現するために、階調反転の工程を入れています。この場合の注意として、原画は全体のピントを明瞭にして撮ること、明暗が逆になることを想定することです。使用ソフト=Photoshop

自由活動としての画像処理作品

撮影した彼岸花の写真をピクチャーチューブ（写真が絵筆で描けるようにすること）で作成し、背景上に描いたもの。使用ソフト=Photoshop CS5

Corel Paint Shop Pro Photo X2



巷ではデジタル色が主流となり、テレビの解像度の良さと鮮やかな色彩にはびつくりします。スマホやタブレットでも写真がきれいに撮れますし、メールなどで写真が日常的に使われています。いわゆるデジタル画像が氾濫している今、私の場合、デジタル画像でもむしろ銀塩写真の発色に近い色補正に画像処理ソフトを利用します。銀塩写真の色合いを知っている世代の私は、落ち着きのある上品な色が自然の色彩だと信じているからです。しかし、デジタル色で育った世代にとってはどうでしょうか。私が住む町には、照明設備が整備されている写真専用の展示ギャラリーがありません。そのせいか写真展で銀塩写真とデジタル写真を同時に展示していると、銀塩写真の色再現は眠たいという声もあります。動画と違い一枚の作品で思いを表現しなければならぬ写真は、まず、出合った被写体を最高に見せるための撮影努力（季節や時間帯、背景、カメラ、レンズその他基本的技術など）が必要です。その上で必要ならば補正処理し、要らなければストレートにプリントする、これが私の基本的な考えです。

私のデジタル表現

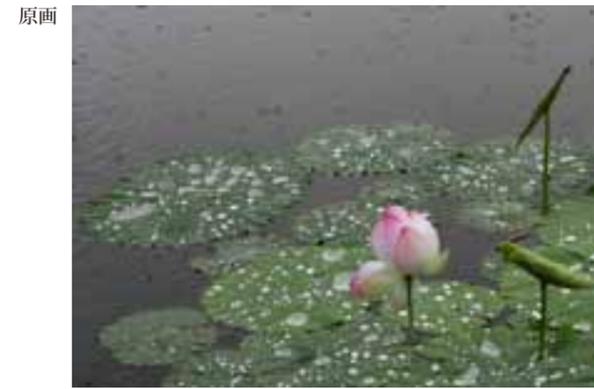
要があります。現状では出品者のモラルに頼るところが多いように思います。

写真講座

デジタル写真の楽しみ方

佐藤ちえ子（会員）

デジタル写真では、様々な画像処理ソフトを利用して、より完成度の高い作品づくりが楽しめます。



加工後

2012年度第60回展出品作品「雨」の画像処理

台風による雨の中の撮影なので、ブレ防止のためシャッター速度を速くして撮影。色調が全体に暗いので、明暗処理を上部と下部のグレーを別々に補正しました。使用ソフト=ニコン Capture NX

デジタル写真の魅力

私は、かつて秋山庄太郎先生の「花」に魅せられて、報道のような記録性の強いスナップ写真ではなく、アートとしての写真表現をめざしてきました。以来、美しい日本の花風景をずっと撮り続けていますが、いつの日か伝統的な様式美である日本絵画、琳派のような作品をつくりたいと奮闘しています。

現在はデジタルカメラの目覚ましい技術革新により、様々なシーンの撮影条件に対応した画像処理機能を搭載したカメラが主流となっています。たとえば、難しいとされる夜景や花火などの撮影が、初心者でもいとも簡単に撮れるようになりました。またデジタルカメラを購入すると、画像処理ソフトも付いてきます。これは使ってみようと思いますよ。

デジタルカメラのRAWで撮影するとRAW現像という画像処理をしないと写真になりません。写真を撮ることの基本的な技術は銀塩カメラもデジタルカメラも同様ですが、撮影後に画像処理をすることが、デジタルのもう一つの楽しみです。私の場合は色処理、背景処理、多重撮影など様々な画像処理の機能を使い分けて、それぞれ必要と思う作品に利用しています。個人の写真活動においては、作品の制

作に対して何の制限もありません。デジタル写真では、表現においてバリエーションが広がり、自由な発想と感性で作品づくりを楽しむことができます。私は「写真」とはかけ離れたCG作品にも挑戦しています。もちろん、画像処理ソフトを使わないストレートな写真表現も楽しんでいきます。

デジタル画像処理の考え方

とは言っても、二科会写真部展のような公募展や写真コンテスト、または新聞などのメディアに掲載する写真においては、当然、主催者側の規定には従うべき制限があります。ここは気を付けなさいませ。作品をポツにしたいためには、出品先の選択を慎重にすること、規定をよく理解して従うことが大切です。

近頃は大手新聞が募集する写真も、画像処理した作品を掲載していますし、画像処理をした作品をグランプリとしている写真コンテストもあります。が、いっぽうで新聞カメラマンが画像処理した写真を発表したことが発覚して処分された例もあります。個人の作品でも、発表媒体や使用目的によって画像処理が不可の場合がありますので注意しなければなりません。写真コンテストなど主催者側も画像処理についての制限を明確にする必

第61回二科会写真部展と授賞式を開催

第98回二科展(＝第61回二科会写真部展)は、9月4日(水)から16日(月)までの12日間(9月10日休館)、東京・六本木の国立新美術館で開催しました。写真部展会場には特別会員・会員・会友の作品及び一般公募の入賞・入選作品の総1464作品を展示しました。

■ギャラリートークを開催

写真部展会場では、今年も写真部会員によるギャラリートークを行いました。9月7日(土)午前は森井禎紹会員と蜂須賀秀紀会員、同日午後は徳永美奈子会員と大山荘一会員、8日(日)午前は藤森順治会員と鈴木洋一会員が担当しました。一般公募部門の入賞作品を中心に作品解説を行い、毎回、解説者の周囲には多数の方が集まり、熱心に聞き入っていました。

■フォト・セミナーを開催

国立新美術館3階研修室にて、9月8

日(日)午後、会員を講師にフォト・セミナーを実施。当日は会場に入りきれないほど多数の方々に参加されました。第1部は佐藤ちえ子会員、第2部は蜂須賀秀紀会員が講師を務めました。講師自身の作品を映写しながら、作品のテーマや撮影意図などについて解説。また、撮影テクニックやデジタル画像処理など技術的なノウハウをわかりやすく解説するなど、充実した内容の写真講座となりました。

■第61回展「学生二科賞」が二重応募で入賞取り消しになる

第61回展「学生二科賞」に決定した孫華さんの作品「太極拳」は、すでに他の公募展で入賞していることが判明しましたので二重応募と判断し、規定により入選・入賞を取り消しました。二科展が開催された後の9月5日に二重応募であることが判明したため、作品集及びその他の資料への掲載はそのままになっておりますが、第61回展「学生二科賞」は該当作品なしとなりました。

■第61回二科会写真部展授賞式

第61回二科会写真部展の授賞式を9月6日(金)に東京プリンスホテルにて開催。当日は好天に恵まれ、来賓をはじめ特別会員・会員・会友、そして全国から入選・入賞者など約900名の皆様が出席され、盛大な授賞式になりました。授賞式は午後2時30分から始まり、大竹省二理事長が開会あいさつ、続いて来賓61名の皆様を紹介。来賓祝辞を公益社団法人二科会理事長・田中良様、一般社団法人二科会デザイン部理事長・今村昭秀様、エプソン販売株式会社広報宣伝部長・白杵敏子様から賜りました。



第61回二科会写真部展(国立新美術館)

初めに二科賞、全国知事会賞を表彰。続いて「一般部門」協賛会社賞23賞と奨励賞2賞を表彰、「組写真部門」協賛会社賞14賞と奨励賞3賞を表彰、「学生部門」協賛会社賞6賞を表彰しました。第61回展入選作品の表彰を行い、「一般部門」入選者を代表して田中二男さんが受賞。また「組写真部門」入選者を代表して西村廣子さん、「学生部門」入選者を代表して須賀一樹さんが、それぞれ受賞しました。表彰の後、二科賞受賞の板倉さかえさん、全国知事会賞受賞の福井憲男さんが滞りなく進行し、午後3時50分に閉会しました。

■第61回展懇親会

授賞式から会場を移して懇親会が始まり、開会あいさつを土田貴夫会員が石川支部による撮影会の案内を兼ねて行いました。富士フィルムイメージングシステムズ株式会社執行役員・野田聡様のご発声で乾杯。例年どおり会場には賑やかな会話が飛び交い、恒例の初入選者の紹介にも多数が登場して、全国から参集した方々の交流の場となりました。近藤誠宏会員より中締めあいさつがあり、懇親会は定刻に閉会しました。

〈事務局長・片岡順一(会員)記〉

写真撮影=今井寿雄会員



二科賞「キック」板倉さかえ(兵庫県)



全国知事会賞「着付け中」福井憲男(埼玉県)

第61回二科会写真部展 公募部門入賞作品一覧

二科賞「キック」板倉さかえ(兵庫県)
全国知事会賞「着付け中」福井憲男(埼玉県)

【一般部門】

- マミヤ・デジタル・イメージング賞「祭り見物」藤井雅子(兵庫県)
- ケンコー・トキナー賞「里のなりわい」佐々木政幸(福井県)
- オリンパスイメージング賞「マザー」渡辺美沙(山口県)
- キヤノン賞「渡し舟」花木義孝(三重県)
- ケイジェイイメージング賞「霧の谷」鶴田 正(鹿児島県)
- シグマ賞「夕彩のおび」岡本武志(愛知県)
- セコニック賞「街角」鷹取教示(岡山県)
- イーストウエスト賞「雷鳴とどろく」久保勝敬(石川県)
- ウッドマン賞「若者達」松下紀和(兵庫県)
- エイエムエス賞「スズメの花」林 正博(広島県)
- エターナルラボ賞「稽古帰り」坂倉美智子(三重県)
- カラーサイエンスラボ賞「粉雪集」津島恵子(広島県)
- 写真弘社賞「語らい」脇本敏治(広島県)
- トミカラー賞「彩雲笠雲」井出吾朗(山梨県)
- 富士フィルム賞「暴れ馬」亀田義博(広島県)
- フレームマン賞「ジャンプ」清野真紀子(福島県)
- プロラボ ホワイトアース賞「爆風」上杉京子(広島県)
- 堀内カラー賞「残り香が春風をまとって」岡崎大郎(広島県)
- よしみカメラ賞「memory」松本 博(福岡県)
- ラボネットワーク賞「視線」堀 司郎(広島県)
- フォトコン賞「メロディー」石川玲子(京都府)
- アサヒカメラ賞「宵月」上野満夫(長野県)
- 日本カメラ賞「SAKURA」宮本邦男(岡山県)
- 奨励賞「季節外れの浜」寺田保正(秋田県)
- 奨励賞「相棒」江口智子(東京都)

【組写真部門】

- エプソン賞「秋雨」川井輝子(兵庫県)
- ニコン賞「海に生きる」森 誠子(千葉県)
- ペンタックスリコーイメージング賞「白いフォルム」瀬井五一(愛知県)
- コダック賞「浄瑠璃人形」夏日幹也(兵庫県)
- タムロン賞「晩秋」春名恵美(兵庫県)
- 写真弘社賞「竹彩」小川正勝(愛知県)
- ピクトリコ賞「追憶」Robert K Hirsch(東京都)
- クリエイイト賞「パラダイス」幾田茂仁(徳島県)
- フレームマン賞「春うらら」藤本範子(兵庫県)
- 堀内カラー賞「地吹雪」大浦美保(和歌山県)
- ラボネットワーク賞「街角」おおいし和子(兵庫県)
- フォトコン賞「スマイル」大槻富士枝(愛知県)
- アサヒカメラ賞「晩秋の石の村」浅井光子(東京都)
- 日本カメラ賞「孫と暮らす」福田絹子(宮城県)
- 奨励賞「エアプランツくん」土屋祥子(東京都)
- 奨励賞「Déjà vu」垣村明美(兵庫県)
- 奨励賞「凝視」阿部禎男(鳥取県)

【学生部門】

- 学生二科賞は該当作品なし
- フェーズワン賞「貴方を待つ」吉田 薫(新潟県)
- クリエイイト賞「鳥になれ!!」西崎菜里(静岡県)
- ラボネットワーク賞「ツリーに願いを」畑ひさの(富山県)
- フォトコン賞「片想い」松田舞香(岐阜県)
- アサヒカメラ賞「タッチ」鈴木侑人(静岡県)
- 日本カメラ賞「コミュニティ」大北浩人(和歌山県)

作品募集

REAL ベストフォト コンテスト作品募集

《11月28日(木)締切り!》

広報誌『REAL』では、全国各支部員を対象に誌上フォトコンテストを実施します。日ごろの写真活動の成果である最上の作品をどしどし応募してください。

【募集要項】

- 募集対象：一般社団法人二科会写真部47支部の支部員
- テーマ：自由（未発表作品に限る）
- 応募作品：カラー及びモノクロのプリント A4判～四ツ切・単写真に限る
タイトル・氏名・住所・電話番号を記入した応募票（自作）を作品裏面に貼付
- 応募点数：制限なし
- 募集締切：2013年11月28日(木)消印有効

【応募規定】

- 応募料：無料
- 審査：広報誌『REAL』編集委員会
- 優秀賞：10名以内（優秀作品は『REAL』に掲載）
- 発表：広報誌『REAL』21号（2014年1月発行予定）。入賞者のみ本人に直接通知、ホームページに掲載
- 作品返却：応募プリントは返却しない
- 応募方法：郵送
- 応募先：(一社)二科会写真部
「REALフォトコンテスト」係
〒106-0031東京都港区西麻布 1-4-20-601
- 問合せ先：同上 (TEL: 03-3470-8033)
- 主催：一般社団法人二科会写真部

「石川の伝統を撮る」 撮影会作品募集!

《11月19日(火)締切り!》

石川支部主催による金沢城公園三の丸広場での撮影会作品を募集します。石川県が誇る伝統文化の魅力を捉えた自信作を応募してください。

【募集要項】

- 募集対象：金沢撮影会の参加者に限る
- 募集作品：10月19日（土）金沢会場撮影会での作品に限る
「御陣乗太鼓」「加賀鷹梯子演技」「加賀獅子舞」「金沢東茶屋芸妓」
- 応募作品：カラー及びモノクロのプリント A4判～四ツ切・単写真（未発表作品）に限る
タイトル・氏名・住所・電話番号を記入した応募票（自作）を作品裏面に貼付
- 応募点数：1人10点以内
- 応募締切：2013年11月19日(火)消印有効

【応募規定】

- 応募料：無料
- 審査：大竹省二創立会員
- 優秀賞：10名以内（優秀作品は『REAL』に掲載・記念品を贈呈）
- 発表：2014年1月発行の広報誌『REAL』21号に掲載。入賞者のみ本人に直接通知、ホームページに掲載
*入賞作品は二科会写真部本展、支部展、その他のコンテストには応募できません
- 作品返却：応募プリントは返却しない
- 応募方法：郵送
- 応募先：(一社)二科会写真部
「金沢撮影会コンテスト」係
〒106-0031東京都港区西麻布 1-4-20-601
- 問合せ先：同上 (TEL: 03-3470-8033)
- 主催：一般社団法人二科会写真部

NEWS FILE

■支部展情報

●第33回千葉支部展
千葉支部員の作品を展示。
会期：10月8日(火)～13日(日)
会場：千葉市美術館9階市民ギャラリー

●第35回広島支部公募展
広島支部公募展を福山で開催。公募の入選作品約420点、会員・会友作品約40点を全紙パネルで展示。
【福山展】
会期：11月6日(水)～10日(日)
会場：ふくやま美術館ギャラリー
※広島展（広島県立美術館）は終了。

●第19回長野支部公募展
長野支部公募展を2会場で開催。
【長野市会場】
会期：11月12日(火)～17日(日)
会場：八十二別館ギャラリー82
【茅野市会場】
会期：11月27日(水)～12月1日(日)
会場：茅野市民館市民ギャラリー1

●第33回九州・沖縄地区公募展
九州・沖縄地区の写真愛好家を対象に公募。作品を公開審査し、その入賞・入選作品を展示。同時に九州・沖縄8支部（鹿児島支部・福岡支部・大分支部・長崎支部・佐賀支部・宮崎支部・熊本支部・沖縄支部）の支部員の作品も併せて展示。
会期：11月12日(火)～17日(日)
会場：長島美術館

【公開審査】

高橋扶臣男特別会員、中山陽特別会員による公開審査は参観自由。審査終了後には作品講評と表彰式を行う。
日時：10月27日(日)
会場：南日本新聞会館みなみホール

●鳥取支部写真展
第60回二科会写真部展の会員・会友・入賞・入選作品と支部員の作品、約80点を展示。
会期：11月15日(金)～19日(火)
会場：米子市美術館2階第3展示室

●2013年高知支部展
支部員20名の作品80点を全紙サイズで展示。
会期：11月19日(火)～24日(日)
会場：高知市文化プラザかるぼーと7階第4展示室

●第21回岐阜支部展
会員・会友・支部員が全紙の作品を各自3点ずつ出品。
会期：11月26日(火)～12月1日(日)
会場：岐阜県美術館

●第37回愛知支部公募展
特別会員・会員・会友作品と一般公募の入選作品、約180点を展示。
会期：12月3日(火)～8日(日)
会場：愛知県美術館ギャラリーJ室

●第37回東北地区公募展
東北6支部（岩手支部・青森支部・秋田支部・山形支部・宮城支部・福島支部）の支部員と東北6県在住者・出身者から公募の入賞・入選作品、約350点を展示。
会期：12月19日(木)～22日(日)
会場：岩手県民会館展示室

●福島支部展

第37回二科会写真部東北地区公募展の県内入賞・入選者の作品、第60回二科会写真部展の県内入選者と会員・会友の作品を展示。
会期：12月26日(木)～28日(土)
会場：福島テルサ4階ギャラリー

■公募展作品募集

●第37回愛知支部公募展
愛知支部員と一般の方を対象にパネル貼り作品を募集。入選作品は12月3日(火)～8日(日)まで愛知県美術館ギャラリーで展示。
◇応募資格：愛知支部員・一般(プロ・アマは問わない)
◇テーマ：自由(単写真1点、カラー・モノクロ自由、デジタルも可、未発表作品)
◇パネル仕様：応募要項を参照のこと
◇パネル搬入日：12月2日(月)13時より
会場：愛知県美術館ギャラリーJ室
◇応募方法：応募には所定の書類(応募要項/出品票)が必要(問合せ先：市川喜久雄 愛知支部長 0565・52・0248)
◇出品料：2千円
◇展示協力費：支部員以外の一般出品者は展示協力費6千円を同時に納入してください(落選の場合は、審査終了と同時に作品と共に返金します)

◇審査員：愛知支部所属特別会員・会員10名
12月2日(月)13時30分より会場で審査
◇賞：愛知支部大賞(賞金10万円・楯・賞状)ほか

●第50回山口支部公募展

山口県内に在住、在勤の方と学生を対象にパネル貼り作品を募集。入選作品は2014年1月から2月にかけて県内4会場で展示。

◇出品資格：山口県内に在住者・勤務者・学生(プロ・アマは問わない)
◇テーマ：自由(単・組写真) 未発表および発表予定のない作品に限る
◇サイズ：全紙パネルマット貼り
◇出品点数：制限なし。組写真は2枚組または3枚組
◇出品料：一般は1点2千円/山口支部員は1点1千円/学生は1点1千円(いずれも郵便振替)

◇作品搬入：10月1日(火)～15日(火)
◇応募方法：応募には所定の書類(作品募集要項/応募票)が必要(問合せ先：堀田俊秀 山口支部長 0834・88・2083)
◇公開審査：10月20日(日)
会場：下松市地域交流センター・やまももホール
◇作品受付時間：9時30分～12時(当日審査会場へ持ち込み可)
◇審査員：森井禎紹会員
◇審査結果発表：応募者全員に通知
◇賞：山口支部大賞(賞金5万円)、第50回記念特別賞(賞金3万円)ほか

■特別会員・会員・会友・支部員情報

●黒田収写真展「波を読み波に舞う」
黒田収会友(滋賀)の個展。ジェットボードと波と人が織り成す一瞬の美を追求した半切のカラープリント40点を展示。
会期：10月2日(水)～8日(火)
会場：ぎやらい西利

●おおいし和子写真展「路地裏」
おおいし和子会友(兵庫)の個展。
会期：10月31日(木)～11月6日(水)
会場：富士フォトギャラリー大阪

INFORMATION



■2013年度夏期定時会員会友総会を開催

夏期定時会員会友総会を特別会員・会員・会友が出席して、9月6日(金)に東京プリンスホテルにて開催しました。

大竹省二理事長の開会挨拶のあと、会員・会友各賞の表彰を行いました。「大竹省二賞」1名、「会員努力賞」3名、「会友努力賞」11名を表彰。続いて、本年度の会員推挙者16名に「会員推挙認定書」と「会員バッジ」を授与。会友推挙者33名に「会友推挙認定書」と「会友バッジ」を授与しました。

●第61回展 会員・会友受賞者

<創立会員賞> (特別会員・会員対象)

「大竹省二賞」小野寺泰雄(秋田)

<会員努力賞> (特別会員・会員対象)

宮阪克人(長野)、山岡成男(兵庫)、鈴木洋一(秋田)

<会友努力賞> (会友対象)

内藤利夫(愛知)、松永節夫(福井)、笹川義信(宮城)、杉本雅美(鳥取)、高浜八郎(石川)、近藤頸子(富山)、川上恵美子(大阪)、北尾兵衛(鳥取)、鎌田義行(埼玉)、上島勝幸(長野)、杉野節子(高知)

●2013年度会員推挙者 / 16名

(2013年9月6日付)

福田幸子(神奈川)、鶴田巻雄(群馬)、小林光之(栃木)、野々村整亮(静岡)、坂尾富司(三重)、田辺三郎(三重)、中森 勉(三重)、清水久士(福井)、八木富夫(京都)、南村初江(滋賀)、古賀典篤(島根)、橋本明禪(岡山)、入野俊三(高知)、坂野美好(栃木)、角田良一(岩手)、小川文男(岩手)

●2013年度会友推挙者 / 33名

(2013年9月6日付)

石崎佳代子(北海道)、多田吉志(北海道)、吉江和幸(北海道)、佐々木 修(山形)、奥田恭子(神奈川)、森 公夫(千葉)、石井国利(埼玉)、金子博昭(埼玉)、荒木利純(群馬)、松井義明(群馬)、山本 茂(群馬)、大類好二(栃木)、宮下賀明(山梨)、鈴木美喜夫(静岡)、鈴木登紀子(愛知)、溝口比紗子(愛知)、福岡成之(石川)、一ノ谷敏治(富山)、おおいし和子(兵庫)、竹田洋祐(奈良)、大浦美保(和歌山)、野上勝也(大阪)、生田利秋(鳥取)、宮本邦男(岡山)、大平幸恵(広島)、亀田義博

■表紙のことは

「黄昏の浜辺」大竹省二 創立会員

インド洋に沈む夕陽は、いつもドラマチックである。静かな蒼い海がうっすらと赤みを帯びて、やがて闇のなかに消える。

そんな一瞬の光景を背景に撮影。浜辺に引き揚げられた小舟に腰かけた女性に向かって、太陽からキラキラ輝く黄金の道が一直線に海面を走った。

(広島)、児玉辨二(広島)、谷花森太郎(広島)、岡田邦彦(山口)、鶴田 正(鹿児島)、神田洋子(福岡)、野北泰司(福岡)、宮崎郁子(福岡)

■第98回二科展(=第61回写真部展) チャリティ事業に参加

第98回二科展会場において、昨年に引き続き絵画・彫刻・デザイン・写真4部門の会員会友有志によりチャリティ販売を行いました。写真部では特別会員・会員・会友の有志77名から3,074点に及ぶポストカード・額装写真プリントなどの提供がありました。

チャリティ販売コーナーでの収益金は、第98回二科展を後援した、NHK厚生文化事業団を通じて東日本大震災の被災地への支援として寄付されます。また、寄贈品の一部を公益社団法人二科会が一昨年より交流を続けている福島県南相馬市の関係先へ配布する旨報告がありましたので申し添えます。

■『第61回展二科会写真部作品集』

2013年度「第61回二科会写真部展」に展示した総1464作品をオールカラーで収載した、貴重な作品集です。巻末に入賞者受賞感想、第1回展から第61回展までの入賞者・会員会友推挙者一覧、創立会員・特別会員・会員・会友・入賞者・入選者の出品目録などを収載。並製本・サイズA4判変形(297×225ミリ)・カラー396ページ・本文50ページ。頒布価格15,000円。特別会員・会員・会友・支部員・第61回展入賞者および入選者は特別価格13,000円。支部員以外の第61回展応募者は14,000円(いずれも送料実費)。購入希望者は、所定の申込書を事務局にご請求ください。



第61回展二科会写真部作品集

■(社)二科会写真部石川支部主催で撮影会を開催

10月19日(土)、石川県金沢市・金沢城公園三の丸広場において、石川支部による撮影会を実施。当日の撮影対象は石川伝統の「御陣乗太鼓」「加賀鷹梯子演技」「加賀獅子舞」「金沢東茶屋芸妓」で、撮影指導は森井禎紹会員、蜂須賀秀紀会員、土田貴夫会員、工 俊治会員が務めます。なお、撮影会の作品を募集し、優秀作品は『REAL』に掲載します。詳細は本誌14ページを参照。

■第98回二科展(=第61回写真部展) 地方巡回展スケジュール

大阪展: 2013年10月30日(水)～11月10日(日)・大阪市立美術館

金沢展: 2013年11月15日(金)～24日(日) 金沢21世紀美術館

京都展: 2013年11月28日(木)～12月8日(日)・京都市美術館

名古屋展: 2013年12月18日(水)～23日(月・祝)・愛知県美術館ギャラリー

広島展: 2014年1月7日(火)～12日(日) 広島県立美術館

鹿児島展: 2014年3月5日(水)～16日(日) 鹿児島県歴史資料センター黎明館

福岡展: 2014年3月25日(火)～30日(日) 福岡市美術館

※会場によって展示スペースが異なるため、全ての作品が展示されない場合もあります。

■特別会員・会員・会友情報

後藤征二会友(愛知)2013年7月15日逝去
赤羽忠雄会友(千葉)2013年8月6日自主退会
西村隆男会友(和歌山)2013年9月16日自主退会
飯塚武利会友(栃木)2013年10月3日自主退会
田中とよき会友(島根)2013年10月3日自主退会

二科会写真部広報誌「REAL」Vol.20

2013年10月15日発行

発行所 / 一般社団法人二科会写真部

発行人 / 大竹省二

編集 / 一般社団法人二科会写真部

〒106-0031 東京都港区西麻布1-4-20

ワルトハイム西麻布601

TEL. 03-3470-8033 FAX. 03-3470-8034

<http://www.nika-shashin.or.jp>